

別表第1（第5条関係）

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	西木の冬祭り事業費補助金					
担 当 課 係 名	観 光 課		観 光 係		作成者	戸 澤 浩
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画のページ
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし				
	主要施策	テンミリオン計画の推進・観光資源の掘り起こし				29
予 算 費 目	一般 会計	7 款 商工費	1 項 商工費	3 目	観光費	
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規／継続の区分		継続	
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	仙北市補助金等交付規則					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	観光客や地域住民のために仙北市の冬を楽しむお祭りとして開催している。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	冬季観光の推進による観光客の増加と地域の活性化を図る。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	地域の人たちによるイベント、また、観光客が体験できるお祭りとして紙風船上げ、伝統芸能の披露等を行っている。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	観光客数	目標	人	18,000	18,000	18,000	
			実績	人	15,000	18,000	11,000	
			達成度	%	83.3%	100.0%	61.1%	
	成果指標	観光客数対前年比	目標	%	100.0	100.0	100.0	
			実績	%	187.5	120.0	61.1	
			達成度	%	187.5%	120.0%	61.1%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				3,473	3,389	3,370	
	人 件 費 (B)		—		785	807	3,963	
	職 員 数		—		0.10	0.10	0.50	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				4,258	4,196	7,333	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				4,258	4,196	7,333
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		284	233	667	
	市民1人当たりのコスト(円)		—		134	133	236	

【事務事業の今までの成果】

他の地域では見られない特長のあるお祭りとして、首都圏はもとより海外からも観光客が訪れるようになってきた。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田花まる観光振興プランやあきた21総合計画においても、小正月行事をはじめとした冬季観光の推進が取り上げられている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	地域と観光客が共に楽しめるお祭りとして定着していることからこのまま支援をいただき存続したい。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	観光客には冬のお祭りとして好評を得ている。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	冬のお祭りとして定着し、冬季観光の推進において一定の役割を担っています。観光客の減少への対応策を講じつつ、地域の活性化のためにも事業の継続が必要と考えます。

一次評価診断図

